

令和2年度 第6回金谷区地域協議会

次 第

日時：令和2年9月30日(水)午後6時～
会場：福祉交流プラザ2階 第1会議室

1 開 会

2 議題等の確認

3 報告

(1) 令和2年度地域活動支援事業（追加募集分）の採択結果について

4 議題

(1) 自主的審議に係る提案について

5 事務連絡

6 閉 会

令和2年度地域活動支援事業（追加募集分）内定一覧（金谷区地域協議会）

資料No.1

【金谷区】の地域活動支援事業補助金（追加募集分）の予算配分額：420万8千円

※ 当日の審査・採点委員数：14人

順位	整理No.	事業名	提案団体名	事業費 (千円)	補助 希望額 (千円)	基本審査		優先採択審査			共通審査						審査・採 点結果	採択額 (千円)	左記を踏まえた内定				
						「適合 する」 の人数	「適合 しない」 の人数	結果	「該当 する」 の人数	「該当 しない」 の人数	公益性	必要 性	実現 性	参加 性	発展 性	合計			平均 点	決定 区分	補助額 (千円)		
1	10	キャンプ体験教室 地域観光事業	金谷地区振興協議会	541	528	14	0	優先	14	0	56	59	61	54	55	285	20.4	採択	528	採択	528		
2	11	金谷区(灰塚駐在所管内)の交通安全確保事業	上越交通安全協会灰塚支部	470	460	14	0	優先	13	1	62	56	58	53	55	284	20.3	採択	460	採択	460		
3	9	飯の歴史文化の保全・保護活動事業	飯地区町づくり協議会	2,837	2,730	12	2	優先	9	5	40	40	43	40	37	200	14.3	採択	2,730	採択	2,730		
合計				3,848	3,718																3,718		3,718

＜提案事業に対する附帯意見＞

整理No.9: ・当該事業は、飯町内会の保有資産である千手観音と厨子を活用し、地域の宝を守り伝え個性的なまちづくりの発信を目的としている。このことから、厨子の修復に当たり町内会などから寄付を募り、自主財源を増やす取組を事業完了日までに行うことを採択条件とする。なお、この取組結果は事業実施概要書に記載すること。
 ・事業提案書に記載されている「次年度以降の活動の見通し」について、その詳細と歴史文化の保全・保護活動の将来的なビジョンを作成し、事業実施概要書に合わせて提出すること。

内定件数	3件
予算残額	490千円

件名	金谷区の防災機能強化
① 課題・問題点（課題等の抽出）	
<p>[小林委員の提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金谷区に 10 か所の避難所が指定されているが、状況に応じて避難所の開設から、水道・トイレ・非常電源の確保など、その機能が十分に果たせるのか。 ・各町内会や自主防災組織などがその機能の一端を担う必要性があるのではないか。 	<p>市の避難所に関する意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難所がその機能を十分果たすことは所詮無理。規模の小さな災害や一時的な避難であればある程度の機能は果たせると思うが、大きな災害には全て対応するのは無理。金谷区の場合は水道・トイレは臨機応変に。非常電源は各避難所に少なくとも数台は必要。停電による灯の確保の他、スマホ電源の確保は必須。 ○命に関わるものとして、水・食料・ミルク等はもちろん、介護用品・生理用品等もある程度の備蓄が必要。 ○今の時代、社会的弱者やペット同伴の避難者も考えなくてはならない。また、新型コロナの問題もあり、最低限個人の仕切り版は必要。 ○近年の避難状態から「プライベートの保護」が重視されているため、目隠し壁や段ボールベッドの充実を図る。 ○これからは広域避難も考えなくてはいけない。今般の新型コロナの影響でこれまでのような密な状態での避難は難しく、多くの避難所に分散が必要。逆に受け入れることも必要。金谷区以外の災害にも対応が必要になる。 ○各避難所におけるライフライン確保については、どんな災害においても最も重要項目のひとつである。設備の購入費用やメンテナンス等の問題で遅れていることは顕著である。「そこにあるものを活用する」という考え（電気：懐中電灯、水道：井戸、トイレ：荒廃地を活用、マンホールトイレ）が必要。 <p>地域の避難所・防災意識・避難行動に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全な避難の仕方や避難所の利用の仕方などについて、地域住民によく理解されていない。 ○町内会や自主防災組織の役割は当然と思うが、限界もある。まず、自助・共助の防災意識の徹底を。 ○各個人の防災意識を高める必要がある。 ○初動職員が派遣されない避難所について、どの様な対応をするか検討する必要がある。 <p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難所の開設や施設・整備等の確保は市の業務であり、各町内会や自主防災組織の役割はそれとは異なるものと思われるので、それぞれの性格や役割の違いを理解しつつ進める必要がある。
② 目標（どういう状態にしたいか）	
<p>[小林委員の提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核となる避難所の非常電源や装備品などの充実 ・地域において行動の伴った避難訓練やシミュレーション実施し、ノウハウを蓄積 ・将来的にこの取組を金谷区全体に広げる。 ・行政だけに頼らず『地域一体となって作り上げる防災』という意識を更に高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 市の避難所の備蓄品・設備等の充実 ② 地域の避難所の備蓄品・設備等の充実 ③ 各町内における自主防災組織の充実 ④ 地域住民の防災意識の向上と適切な避難行動 <p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提案内容については、地域差や必ずしも「金谷区民」だけの避難所とはならない箇所もあることから、金谷区地域協議会のみ問題には留まらないと思われる。 ○避難所の施設・設備の充実か、避難行動の適正化か、目標を整理して考えていく方がよいのではないか。 ○避難訓練やシミュレーション活動に参加した方々の経験はいかせると思うので良いことだと思う。
③ 審議内容（そのために何をすべきか）	
<p>【地域協議会としてできること】</p> <p>[小林委員の提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金谷地区振興協議会に地域活動支援事業として展開するよう提案する（非常電源の確保・装備品の充実等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 市の避難所の備蓄品・設備等の充実（市の取組に関すること） <ul style="list-style-type: none"> ○金谷区内の市の避難所の現状把握（備品等の内容・数量・今後の見直し、コロナ対策、避難場所の見直し等） ○市の担当課との意見交換 ○避難所の装備に関する協議（委員から出された案） <ul style="list-style-type: none"> ・非常電源の確保等、ホームセンター、スーパー、コンビニ等との非常時提携の促進 ② 金谷区内の避難所の備蓄品・装備等の充実（地域の取組に関すること） <ul style="list-style-type: none"> ○地域の避難所の現状把握（備品等の内容・数量・今後の見直し、コロナ対策、避難場所の見直し等） ○地域への提案事項の協議（委員から出された案） <ul style="list-style-type: none"> ・各町内における防災士の育成、避難所への防災士の配置 ・地域活動支援事業の活用（非常電源・装備品・間仕切り用品等、個人では用意できない物等の購入） ・金谷地区振興協議会による「市担当課」「自主防災委員」「町内会長」「防災士」等との意見交換会 ・必要備品や計画の検討 ③ 各町内における自主防災組織の充実（地域の取組に関すること） <ul style="list-style-type: none"> ○各町内の自主防災組織の現状把握 ○各町内の自主防災組織との意見交換 ④ 地域住民の防災意識の向上と適切な避難行動（地域の取組に関すること） <ul style="list-style-type: none"> ○現在、防災に取り組んでいる全団体による連携したシミュレーションの実施、その上で必要なもの・ことの洗い出し、専門家の指導を受け、さらに検討を重ねた上で整備計画を作成する。 <p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年4月に配布された「避難用設置運用マニュアル」で十分可能と考える。

件名	林道難波線 不法投棄物回収ボランティア
① 課題・問題点（課題等の抽出）	
<p>[小林委員の提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> 林道難波線の不法投棄物が減少しない。 不法投棄物回収活動に若者の参加が少ない。 	<p>○不法投棄と回収活動がイタチごっこの状況。</p>
② 目標（どういう状態にしたいか）	
<p>[小林委員の提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> 林道難波線の不法投棄が減少する。 学校、学生からの不法投棄物回収活動への参加、人材育成。 	<p>①林道難波線の不法投棄が減少すること。</p> <p>②学校、学生らの参加による不法投棄物回収活動の充実（人材育成）</p>
③ 審議内容（そのために何をすべきか）	
<p>[小林委員の提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> 金谷地区振興協議会に地域活動支援事業として展開するよう提案する（小学校などへのポスター作製呼びかけ、看板取り付け等）。 	<p>【地域協議会としてできること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○回収を行っている金谷地区振興協議会との意見交換 ○現場視察 ○金谷地区振興協議会への提案事項の協議 提案事項（委員から出された案） <ul style="list-style-type: none"> ・町内会に不法投棄回収のボランティア活動を周知 （その他意見）：40名程度の参加者がいるが、管理上これ以上の人数を必要とするか要検討） （その他意見）：回収ボランティアは、作業に危険性があるので保険の適用とある程度の経験が必要） ・関根学園高等学校にごみ拾い等の活動の参加を依頼 ・地元小学校への看板作成を依頼 （その他意見）直接学校へは依頼せず、振興協議会主催のポスター募集事業として実施） ・警察署名が入った看板を設置 ○市への要望事項の協議 （委員から出された案） <ul style="list-style-type: none"> ・抑止効果となる監視カメラの設置（データの確認はボランティアに依頼） <p>その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○金谷地区振興協議会と市の生活環境課がタイアップして進めている現在のやり方で、大きな問題はないと思う。 ○そもそも不法投棄をなくすことが肝要であり、不法投棄は割に合わないことを知らしめるべき。（看板にも書いてあるが）罰則を科すか回収を義務付けるかをすべき。 ○この件に限らず、地域の課題について、小・中・高・大学に知ってもらうためにはどのような手段があるか知りたい。